

## 岡垣の教育 岡垣東中学校①

～創立から10周年ころまで～

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹

1975(昭和50)年、岡垣町内の急速な宅地開発が進行し、岡垣町内唯一の岡垣中学校においては、生徒数の増加が見込まれた。

同年、岡垣中は生徒数1,039人、学級数24の郡内最大規模の中学校だった。

このままいけば、生徒の収容能力が限界に達する。現在地では校舎の増築が困難であるので、山田747番地に、岡垣東中学校の建設が決定された。

1981(昭和56)年4月、岡垣東中学校が開校し、生徒数517人、14学級、教職員26人だった。

4月6日に、開校式と始業式が同時に行われた。

初代の校長だった貝掛郁光氏は「創立10周年記念誌」で「：新設校として、充実感あふれ、秩序ある校風の確立が、最大の課

題だった。

教職員の連日の協議により、学校像など教育方針をまとめた。学校像として、

○品位の高い明るい学校

○愛情の漂う美しい学校

○力のみなきる生き生きとした学校の3つを掲げた。

校訓として「探究」「剛健」「誠実」を掲げ、教職員が一致して、生徒の育成に当たることにした。「：と述べている。

手野区在住の山崎久香さんは1981年3月まで岡中に勤務し、4月から岡垣東中に赴任した。そのころの思い出を、岡垣中50周年記念誌「木綿間」(1998年発行)に「：私のクラス(2年)は岡中26名、東中に行く生徒は15名でした。

3学期(1980年度)になり、修学旅行の話し合いの際にも、折角2年間仲よく勉強して

きた友達と別れての修学旅行になるので、複雑な気持ちのようでした。

2校分離に伴い、生徒会役員選挙も実施されました。東中初代会長は田中恭子さんと、今(1998年当時)TVQで「とんでナイト北九州」のレギュラーとして活躍していますし、副会長の宮崎和宏君は市川劇団の役者として、客席を湧かせています。

2校分離直前の3月23日、岡中生と東中生とに分かれてのお別れ式があり、お互いの学校の健闘を祈りました。

私は4月、新設された東中に赴任し、3年の担任と美術の教師として、東中の全生徒を教えました。

校舎は美しく生徒達は喜んでいましたが、設備や器材、器具等に不備な点が多く、大変でした。

体育館もできていなかったため、始業式や入学式、卒業式等、2階の2教室をぶちぬいた教室で、肩を触れ合いながら行われました。

東中の校章は2校分離する前に岡中生徒に公募し、3年生の

川口哲弥君のデザインが採用され、校章入りの校旗は私が描きして、体育会等の行事で掲げたものでした。「：と述べている。

校章の図案は、周りの突起が岡垣町の三山(湯川山、孔大寺山、城山)を表している。円形上のラインは、東(EAST)のEを2つ配した。中央には、中学校の中を変形ゴシックで引き締めている。

「校訓」は創立の年に決められたが、現在も使用されている題字は、3代目の校長、下田寅雄氏の筆による。

校訓 探究 剛健 誠実

▲岡垣東中学校校訓



▲岡垣東中学校校章